

駿河湾の深海魚 (16)

イタハダカ (その1)

久保田 正 ・ 佐藤 武



図1. イタハダカ  
体長：18.3mm、雄、本州南方海域で採集

イタハダカ (*Diogenichthys atlanticus*) は、ハダカイワシ目、ハダカイワシ科魚類のイタハダカ属の1種です。日本近海からは駿河湾、小笠原諸島近海、琉球列島近海などから知られており、太平洋、大西洋、インド洋などの温帯、亜熱帯、熱帯海域の中深層に普遍的に分布する1種です。太平洋域では北緯35度から南緯25度に分布します。体長25～30mm位まで成長し、本科魚類中では小型種です(図1)。昼間は、水深600～650m位に生息し、夜間には餌を求めて100m位まで上昇するという日周鉛直移動を繰り返しています。夜間には海面に現れない中層上昇群に含まれています。駿河湾には、本種は黒潮系水の湾内への流入と関連して出現し、100m以深の水層を稚魚ネットで曳網すると、本誌第57・58号で扱ったソコハダカ属のソコハダカ (*Benthoosema suborbitale*) に次いで多く採集されます。また、本属には本種のほかに *D. laternatus* および *D. panurgus* の2種が知られていますが、いずれも分類や分布の知見に曖昧な点があるので、これを明らかにすることが今後の研究課題の一つです。

ところで、本種の尾柄部には、中層上昇群の他の種に見られるように雄は上部にそして雌は下部にそれぞれ二次性徴の発光腺を有し

ています。いずれもある大きさになると現れ(発現)、成長とともに発達し完成します。雌雄の発光腺の形態は、独特な特徴を有しています。

沖縄南方海域から採集された本種の尾柄発光腺の発現後の発達過程を紹介します。先ず雄の発光腺は、体長約11mm以上で現れ、約15mm以上で完成します。その数は1個で、形は長楕円形で白色です。また、雄の体長(X)と上部発光腺の長さ(Y)には直線関係がみられ、 $Y=0.110X-0.306$  ( $r=0.930$ ) で表されます。

一方、雌の発光腺は、体長約12mm以上で現れ、約14～15mm以上で完成します。細片(パッチ)の数は、2～4個が癒着してその境目が判りにくいです。また、雌の体長(X)と下部発光腺の長さ(Y)にも直線関係がみられ、 $Y=0.088X-0.618$  ( $r=0.855$ ) で表わされます。図2には雌雄別に尾柄発光腺の発現後および完成後の2段階に分けさらにその個体の生殖腺(雄は精巣、雌は卵巣)の形状も併せて示しています。

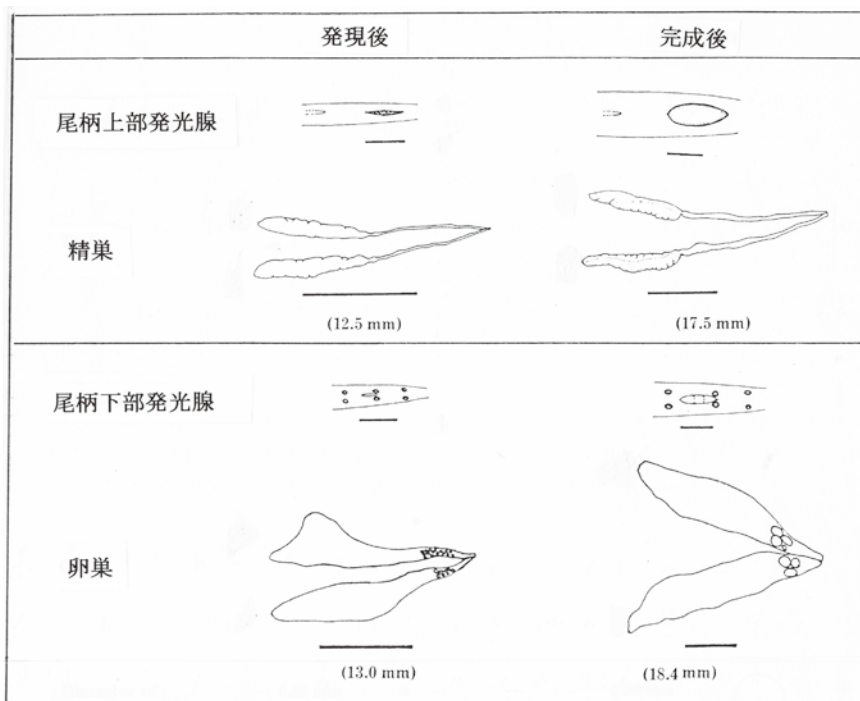


図2. 尾柄上部発光腺と精巣(上)および尾柄下部発光腺と卵巣(下)の発達過程  
各々の図中のスケールは1mm、( )内の数字は体長